

その他

スポーツ科学部3ポリシーに基づく学生自己評価アンケート報告 2021年度版
 Report on students' self-evaluation of achieving three policies
 at Nihon Fukushi University, Faculty of Sport Sciences, 2021

藤田 紀昭 安藤 佳代子 伊藤 嘉人 甲斐 久実代
 Motoaki FUJITA, Kayoko ANDO, Yoshihito ITO, Kumiyo KAI

日本福祉大学 スポーツ科学部
 Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

I. はじめに

毎年実施している学部独自の3ポリシーに関わる調査を昨年度3月(1期生卒業時アンケート)、今年度4月(1年入学時, 2~4年4月時)に実施したのでその結果を報告する。

調査項目, および選択肢は表1に示すとおりで, 5つのアドミッションポリシーに関する質問5項目(1年入学時のみ), 各ディプロマポリシーに関する

質問9項目及び, 社会人スキルと体罰に関する項目(1から4年次), その他の項目8項目である。学生は「全くそうは思わない(全くできない)」, 「思わない(少しできる)」, 「思う(できる)」, 「強くそう思う(十分できる)」の中から一つを選択する。それぞれに1点から4点を付与し, 平均を算出した。

今年度の報告では, アドミッションポリシーに関

表1 スポーツ科学部3ポリシーに基づく学生自己評価調査項目および選択肢

No	質問内容	1	2	3	4	実施時期
1	あなたは大学で学ぶための基礎的な学力を身につけてきたと思いますか? A1	全くそうは思わない	あまり思わない	思う	強くそう思う	入学時 実施
2	あなたはスポーツに関心があり, スポーツに関する知識を身につけて将来に生かしたいと思いますか? A2	全くそうは思わない	あまり思わない	思う	強くそう思う	
3	あなたはスポーツを勉強で自分の可能性に挑戦し, 自分を向上させたいと思いますか? A3	全くそうは思わない	あまり思わない	思う	強くそう思う	
4	あなたは自分の言葉で意見や思いを表現し, 相手に伝えることができますか? A4	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
5	あなたは仲間のことを理解したり, 力を合わせて物事に取り組みることができますか? A5	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
6	あなたはスポーツを人文科学(倫理的視点や歴史的視点), 社会科学(社会学的視点やマネジメントの視点), 自然科学(生理学的視点, バイオメカニクスの視点など)多様な観点から説明することができますか? D1	全くできない	少しできる	できる	十分できる	1 2 3 卒業時 実施
7	あなたは実際にスポーツを行い, その楽しさや難しさを理解し説明することができますか? D2	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
8	あなたはスポーツがもたらす社会的な意味や価値, スポーツの力について理解し, 説明することができますか? D3	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
9	あなたは幼児や大人, 高齢者や障害のある人に人間の発達理論に基づいたスポーツ指導を行うことができますか? D4	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
10	あなたは人々のスポーツに対するニーズを理解したうえで, スポーツのやり方や楽しさ, スポーツの持つ様々な力や影響力を伝えることができますか? D5	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
11	あなたはスポーツ大会や教室などの企画や運営をすることができますか? D6	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
12	あなたは様々な社会事象や問題, 疑問に思ったことに対して, それを深く知ろうとする気持ちがありますか? D7	全くない	少しある	ある	十分ある	
13	あなたは英語を使って自己紹介や会話をしたり, スポーツに関する英語の論文を読んだりすることができますか? D8	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
14	あなたは様々な場面で困っている人を見たとき話を聞いたり, 支援したりすることができますか? D9	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
15	あなたは様々な場面で人と関わり, その集団がうまく機能するよう働きかけたり, 調整することができますか? (社会人に求められる力)	全くできない	少しできる	できる	十分できる	
16	あなたはスポーツ場面における体罰はある程度は仕方ないと思いますか? (体罰)	全くそうは思わない	思わない	思う	強くそう思う	
17	スポーツ科学部で身につけた力は自分の将来や仕事をしていくうえで役立つと思いますか?	全くそうは思わない	思わない	思う	強くそう思う	
18	スポーツ科学部の授業でスポーツを様々な視点から深く知ることができましたか?	全くそうは思わない	思わない	思う	強くそう思う	
19	スポーツ科学部の教員はあなたを丁寧に指導し, 支援してくれたと思いますか?	全くそうは思わない	思わない	思う	強くそう思う	
20	スポーツ科学部の教員はあなたの名前を憶えてくれましたか?	全くそうは思わない	思わない	思う	強くそう思う	
21	スポーツ科学部に入学して授業やゼミ, 実習などに積極的に取り組むことができましたか?	全くそうは思わない	思わない	思う	強くそう思う	
22	スポーツ科学部に入学してよかったですか?	全くそうは思わない	思わない	思う	強くそう思う	
23	現在, 大学の部活動・サークルに入っている	はい	いいえ			
24	これまでにオープンキャンパスや大学の学部の事業(体力測定や講演会)など大学の行事にスタッフとして参加したことがある	はい	いいえ			

する5項目の1期生から5期生までの傾向、ディプロマポリシーに関する9項目及び、社会人スキルと体罰に関する項目の自己評価ポイントの年次推移について報告する。これに加えて、去年は学部の完成年度であったため、1期生の入学時と卒業時の比較および、卒業時の学部に対する意識に関する6項目（スポーツ科学部で身につけた力は自分の将来や仕事をしていくうえで役立つと思いますか？スポーツ科学部の授業でスポーツを様々な視点から深く知ることができましたか？スポーツ科学部の教員はあなたを丁寧に指導し、支援してくれたと思いますか？スポーツ科学部の教員はあなたの名前を憶えてくれましたか？スポーツ科学部に入学して講義やゼミ、実習などに積極的に取り組むことができましたか？スポーツ科学部に入学してよかったと思いますか？）について報告する。

表2はこれまでの回答者数を示している。2019年度の回答者数が著しく少なかったため、1期生の3年次および2期生の2年次の調査結果は参考値として示す。

表2 調査回答者数

	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業時
1期生 (2017年入学)	191	178	12	105	110
2期生 (2018年入学)	188	31	122	105	
3期生 (2019年入学)	194	125	145		
4期生 (2020年入学)	167	170			
5期生 (2021年入学)	164				

表3は本学部のカリキュラムマップである。カリキュラムマップは昨年度見直しを行なった。ディプロマポリシーと実際の授業内容を再検討し、配置しなおした。

II. アドミッションポリシーに関して

図1は入学時のアドミッションポリシーに関する自己評価を示している。1期生から5期生全体の平均を見ると「基礎学力」に関するものが2.99、「スポーツに対する関心や身につけた力を社会で活かす」ことに関するものが3.74、「自己の可能性に挑戦する意志」に関するものが3.59、「自己表現と意思疎通」に関するものが2.81、「他社理解や仲

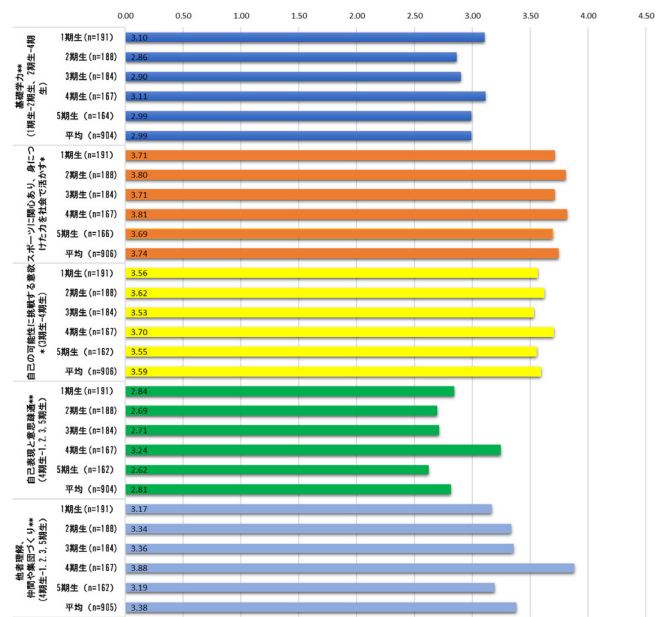


図1 入学時のアドミッションポリシーの自己評価 (1期生～5期生)

間・集団作り」に関するものが3.38であった。「スポーツに対する関心や身につけた力を社会で活かす」ことや「自己の可能性に挑戦する意志」については自己評価が高いが、「基礎学力」「自己表現と意思疎通」に関する項目が2点台と低い。これらの傾向は昨年までと同様である。全ての項目において2020年入学の4期生の自己評価が最も高くなっていることが特徴的である。また、今年度入学した5期生は「スポーツに対する関心や身につけた力を社会で活かす」と「自己表現と意思疎通」については5年間の内で最も低い自己評価となっている。

III. ディプロマポリシーに関する各項目の年次変化について

ディプロマポリシーに関しては入学年度別に各学年における平均を算出し推移を示した。

1. D1 「スポーツ文化を多角的視点（人文・社会・自然科学的視点）から理解している」について

D1に関する質問は「あなたはスポーツを人文科学（倫理的視点や歴史的視点）、社会科学（社会学

表3 本学部のディプロマポリシーとそれに関わる科目配置 (カリキュラムマップ 2021 年度修正版)

ディプロマポリシー	質問	1年配当科目	2年配当科目	3年配当科目	4年配当科目
①スポーツ文化を多角的視点(人文・社会・自然科学)から理解している。	あなたはスポーツを人文科学(倫理的視点や歴史的視点)、社会科学(社会的視点やマネジメントの視点)、自然科学(生理学的視点、バイオメカニクスの視点など)多様な観点から説明することができますか? D1	スポーツ科学入門 スポーツ史 スポーツビジネス 健康管理概論 学校保健A(小児・精神) スポーツと脳 スポーツ生理学 スポーツ心理学	スポーツ医学A(内科系) スポーツバイオメカニクス スポーツ医学B(外科系) トレーニング科学 メンタルトレーニング スポーツ科学演習		
②スポーツの楽しさを体験的に理解している。	あなたは実際にスポーツを行い、その楽しさや難しさを理解し説明することができますか? D2	スポーツ実技 専門実技(ダンス、野外運動A、陸上、バスケットボール)	専門実技(器械運動、水泳、バレーボール、柔道、アダプテッド・スポーツ、サッカー、バドミントン、野外運動B)	専門実技(野外運動C、ソフトボール、テニス、卓球、剣道)	
③スポーツや運動の意味や価値について理解している。	あなたはスポーツがもたらす社会的な意味や価値、スポーツの力について理解し、説明することができますか? D3	スポーツ史 スポーツ文化論 スポーツ社会学 ふくしスポーツ論 スポーツ哲学	スポーツ倫理学 身体表現・芸術表現論 スポーツ人類学 武道論 スポーツジェンダー論 スポーツ科学演習	レクリエーション理論 専門演習I	専門演習II
④人間の発達に基づいた系統的な指導方法を身につけている。	あなたは幼児や大人、高齢者や障害のある人に人間の発達理論に基づいたスポーツ指導を行うことができますか? D4	発達発達論(運動発達・認識発達・ことばの発達) 機能解剖学 認知心理学 教職入門(中高)	スポーツ栄養学 コーチング科学 特別支援教育論 スポーツバイオメカニクス スポーツ指導法演習(陸上、バスケットボール、水泳・水中運動、ダンス) 教育原理(中高) 教育と発達の心理学(中高) 教育制度論(中高) 教育課程論(中高) 教育相談の基礎と方法(中高) 知的障害児の生理と病理 道徳教育の指導法(中) 教育方法論(中高) 保健体育科教育法I(授業づくりの基礎理論) 肢体不自由児教育論 知的障害児教育論 知的障害児の心理 視覚・聴覚・病弱児論	加齢学 障害者スポーツ指導法演習A 障害者スポーツ指導法演習B コンディショニング演習 スポーツ指導法演習(バレーボール、サッカー、テニス、バドミントン、卓球、エアロビクス) 健康運動特論I 健康運動特論II 健康産業施設現場実習 保健体育科教育法II-A(陸上・器械運動) 保健体育科教育法II-B(球技・水泳) 保健体育科教育法II-C(武道) 保健体育科教育法II-D(ダンス・体育理論) 保健体育科教育法III(授業づくり) 総合的な学習の時間の指導法(中高) 生徒・進路指導論(中高) 教育実習I(中高・事前事後) 肢体不自由児の心理 スポーツメディア論	スポーツ指導法演習(ゴルフ、レクリエーション・ニュースポーツI、レクリエーション・ニュースポーツII) 教育実習I(中高・事前事後) 教育実習II(中高) 教育実習III(中高) 障害児教育実習I(事前事後) 障害児教育実習II 教職実践演習(中高) 健康運動特論II
⑤スポーツ文化の継承・発展に貢献できる力を身につけている。	あなたは人々のスポーツに対するニーズを理解したうえで、スポーツのやり方や楽しさ、スポーツの持つ様々な力や影響力を伝えることができますか? D5	キャリア開発I スポーツ教育学 スポーツキャリア教育 教職入門(中高)	キャリア開発II 障害者スポーツ論 スポーツ倫理学 スポーツ支援者論 スポーツ・運動指導者論 コーチング科学 武道論 スポーツ科学演習 スポーツ指導法演習(陸上、バスケットボール、水泳・水中運動、ダンス) 教育原理(中高) 保健体育科教育法I(授業づくりの基礎理論) 教育と発達の心理学(中高) 教育制度論(中高) 教育課程論(中高) 教育相談の基礎と方法(中高) 知的障害児の生理と病理 道徳教育の指導法(中) 教育方法論(中高) 知的障害児の心理 視覚・聴覚・病弱児論	スポーツ指導法演習A 障害者スポーツ指導法演習B コンディショニング演習 スポーツ指導法演習(バレーボール、サッカー、テニス、バドミントン、卓球、エアロビクス) 健康運動特論I 健康運動特論II 健康産業施設現場実習 インターンシップI インターンシップII 保健体育科教育法II-A(陸上・器械運動) 保健体育科教育法II-B(球技・水泳) 保健体育科教育法II-C(武道) 保健体育科教育法II-D(ダンス・体育理論) 保健体育科教育法III(授業づくり) 特別支援教育概論(中高) 総合的な学習の時間の指導法(中高)	スポーツ指導法演習(ゴルフ、レクリエーション・ニュースポーツI、レクリエーション・ニュースポーツII) 教育実習I(中高・事前事後) 教育実習II(中高) 教育実習III(中高) 障害児教育実習I(事前事後) 障害児教育実習II 教職実践演習(中高) インターンシップI インターンシップII 健康運動特論II
⑥地域をはじめとした様々なスポーツや運動の実践の場面に対応できる実践力を身につけている。	あなたはスポーツ大会や教室などの企画や運営をすることができますか? D6	こころから 視覚障害者支援論 ろう文化と手話 聴覚障害者の理解と支援 ふくしとフィールドワーク 知多学 野外スポーツ論 スポーツマネジメント	知多半島のふくし スポーツ・運動指導者論 地域スポーツ論 トレーニング科学 メンタルトレーニング スポーツフィールドワークI	ふくしフィールドワーク実践 衛生・公衆衛生学 学校保健B(学校・救急処置) ふくしスポーツ演習 スポーツ政策・行政論 アスレティックリハビリテーション コンディショニング演習 健康産業施設現場実習	スポーツフィールドワークII-1 スポーツフィールドワークII-2
⑦真実を見極める「知」への探求心を有している。	あなたは様々な社会事象や問題、疑問に思ったことに対して、それを深く知ろうとする気持ちがありますか? D7	法入門 福祉社会入門 経営学 統計学 社会学 哲学 日本福祉大学の歴史 地震と防災社会 日本国憲法 情報処理演習I 情報処理演習II 生理学 スポーツ統計学 導入ゼミ	政治学 福祉の力 経済学 ふくしと防災コミュニティ スポーツ科学演習	生命と環境 専門演習I	専門演習II
⑧国際社会を含む諸領域での情報の伝達・判断・理解力を身につけている。	あなたは英語を使って自己紹介や会話をしたり、スポーツに関する英語の論文を読んだりすることができますか? D8	フレッシュマンイングリッシュI-1 フレッシュマンイングリッシュII-1 情報処理演習I 情報処理演習II 海外フィールドワーク 日本語と文化I-1 日本語と文化I-2 日本語と文化II-1 日本語と文化II-2	フレッシュマンイングリッシュI-1 フレッシュマンイングリッシュII-1 文章作成力演習 身体表現・芸術表現論 測定・評価 日本語と文化III-1 日本語と文化III-2 日本語と文化IV-1 日本語と文化IV-2	スポーツイングリッシュI スポーツイングリッシュII スポーツコミュニケーション スポーツメディア論	
⑨他者と、スポーツを含む多様な手段によって良好な関係を構築する力を身につけている。	あなたは様々な場面で困っている人を見たとき話を聞いたり、支援したりすることができますか? D9	こころから 視覚障害者支援論 ろう文化と手話 聴覚障害者の理解と支援 ふくしとフィールドワーク キャリア開発I スポーツキャリア教育	キャリア開発II コミュニケーション力演習 スポーツ支援者論 スポーツジェンダー論	インターンシップI インターンシップII	インターンシップI インターンシップII

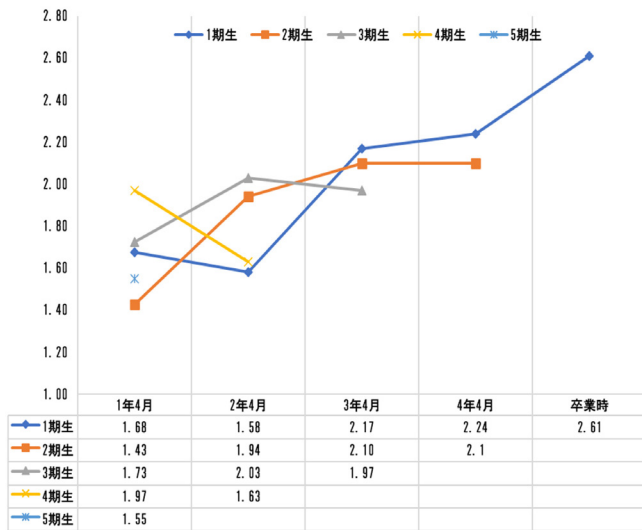


図2 D1:スポーツ文化を多角的視点(人文・社会・自然科学的視点)から理解している

的視点やマネジメントの視点), 自然科学(生理学的視点, バイオメカニクスの視点)など多様な観点から説明することができますか」というものである。図2は入学年度別にその自己評価の平均の推移を示している。昨年度は1期生の2年次に自己評価ポイントが下がる傾向が見られたが, その他においては自己評価が徐々に上がっていた。しかし, 今年度は3期生, 4期生においてポイントが停滞もしくは低下している。カリキュラムマップからわかる通り1年, 2年においてこのディプロマポリシーに関する授業が多く配置されているにもかかわらず, ポイントが下がっていることになる。昨年度はコロナ禍の影響でリモートやオンデマンドによる授業が実施された。カリキュラムマップには位置付けられていないが実験系の授業などこれまでと同様に実施できなかったことが影響しているのかもしれない。

2. D2 「スポーツの楽しさを体験的に理解している」について

D2に関する質問は「あなたは実際にスポーツを行い, その楽しさや難しさを理解し説明することができますか」というものである。図3は入学年度別にその自己評価の平均の推移を示している。昨年

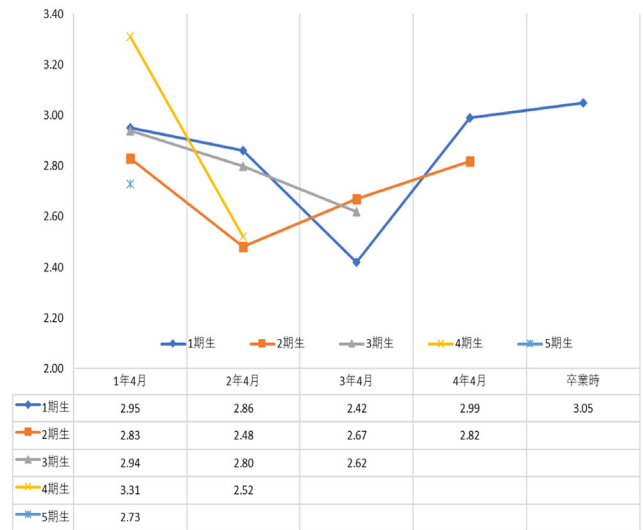


図3 D2:スポーツの楽しさを体験的に理解している

度, 1期生, 2期生では自己評価が伸びているが, 3期生, 4期生では下がっている。4期生に関しては各項目とも入学時の自己評価が高かったことに加え, 入学して初めての授業でコロナ禍の影響を受け, 対面による実技授業の回数が制限されたことの影響があるものと考えられる。特にキャンプ実習は宿泊を伴う形で実施できず, 同学年の仲間と深く知り合い人間関係を結ぶ機会が十分ではなかったことが影響しているのかもしれない。D2に対する自己評価が低いことは昨年度来指摘されているところでもある。今年度からは履修登録の方法を改善し, クラス人数を制限し, 授業内容の質を担保しようとしている。次年度以降こうした改善策の影響が出てくることを期待したい。

3. D3 「スポーツや運動の意味や価値について理解している」について

D3に関する質問は「あなたはスポーツがもたらす社会的な意味や価値, スポーツの力について理解し, 説明することができますか」というものである。図4は入学年度別にその自己評価の平均の推移を示している。2期生は学年進行に伴い順調に自己評価を伸ばしているが3期生と4期生の自己評価は今回低下している。3期生に関してはスポーツ

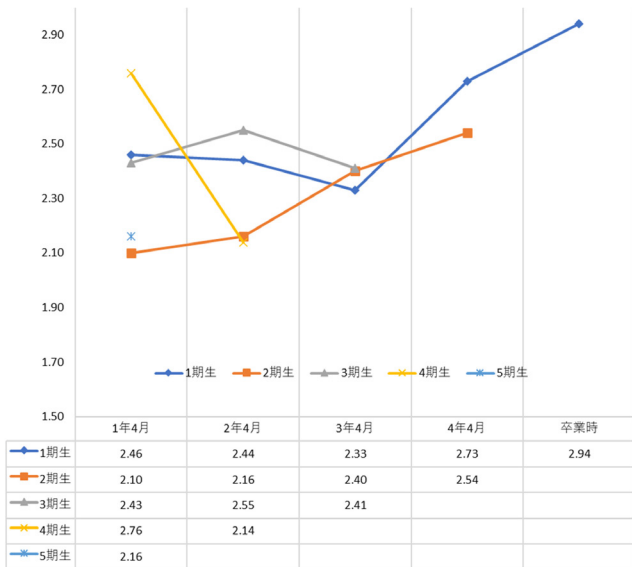


図4 D3：スポーツや運動の意味や価値について理解している

科学演習など初めて行う実験系の授業方法に制限があったことが影響しているのかもしれない。4期生は入学時の自己評価が著しく高かったことに加え、このディプロマポリシーに関連付けられている授業のほとんどがリモートもしくはオンデマンドで実施されたことが影響しているかもしれない。これらの科目の成績がどうであったかは現段階では分からないが、成績も他学年に比べて低いようであれば、今年度以降もこうした授業形式は継続することが考えられるためリモート授業、オンデマンド授業の方法について見直し、改善を行う必要があるし、可能な限り対面式授業を追求すべきであろう。

4. D4「人間の発達に基づいた系統的な指導方法を身につけている」について

D4に関する質問は「あなたは幼児や大人、高齢者や障害のある人に人間の発達理論に基づいたスポーツ指導を行うことができますか」というものである。図5は入学年度別にその自己評価の平均の推移を示している。4期生をのぞき学年を経るにしたがって自己評価ポイントが上がっている。主としてD4に紐づくとしてされている授業には、発育発達論、スポーツ栄養学、スポーツコミュニケーション、レ

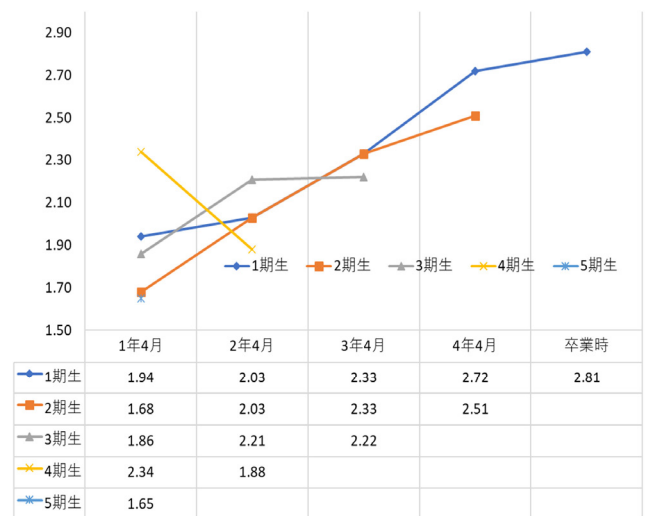


図5 D4：人間の発達に基づいた系統的な指導方法を身につけている

クリエーション理論、および教職課程関連科目などがある。教職関連科目は比較的GPAが高い学生が履修していることが考えられる。こうした層には授業方法による影響が少ないのかもしれない。

5. D5「スポーツ文化の継承・発展に貢献できる力を身につけている」について

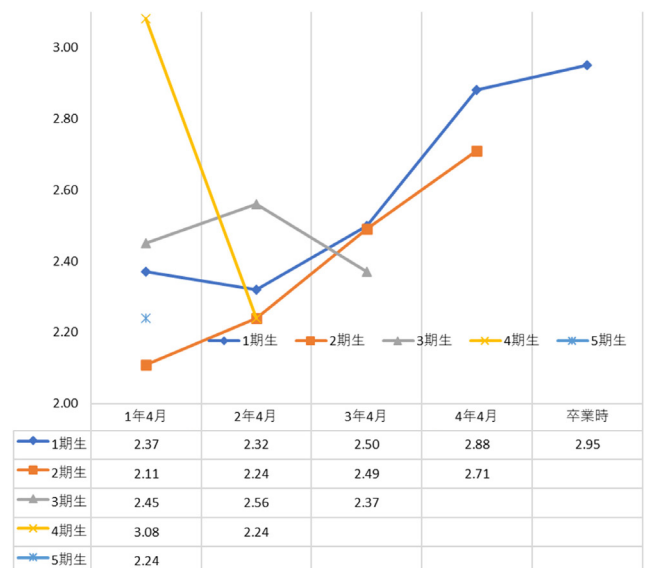


図6 D5：スポーツ文化の継承・発展に貢献できる力を身につけている

D5に関する質問は「あなたは人々のスポーツに対するニーズを理解したうえで、スポーツのやり方や楽しさ、スポーツの持つ様々な力や影響力を伝えることができますか」というものである。図6は入学年度別にその自己評価の平均の推移を示している。昨年度に関しては1期生、2期生は自己評価の伸びを示し、3期生、4期生は自己評価が下がるというD2, D3と同様の傾向を示した。D5に紐づく主な科目としてはスポーツキャリア教育(1年次)スポーツフィールドワークI, スポーツ指導法演習(2年次)や教職関連科目(2年次)である。対面授業が十分に実施できなかったこと、スポーツフィールドワークIではメインである実習ができなかったことの影響が出ているものと思われる。

6. D6 「地域をはじめとした様々なスポーツや運動の実践の場面に対応できる実践力を身につけている」について

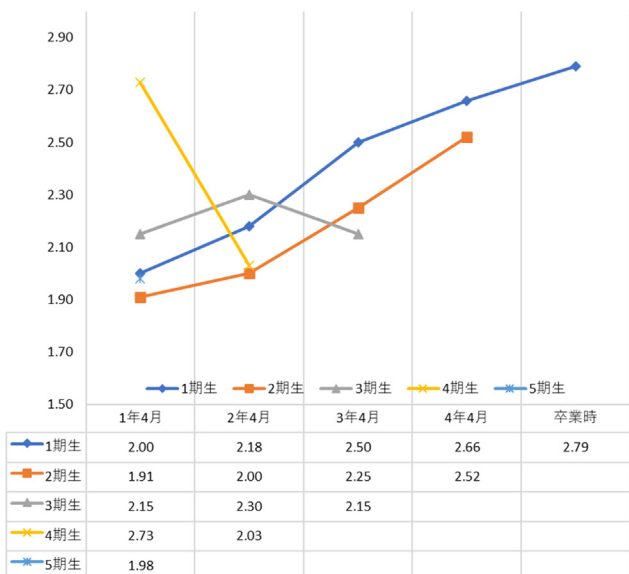


図7 D6：地域をはじめとした様々なスポーツや運動の実践の場面に対応できる実践力を身につけている

D6に関する質問は「あなたはスポーツ大会や教室などの企画や運営をすることができますか」というものである。図7は入学年度別にその自己評価の平均の推移を示している。

昨年度に関しては1期生、2期生は自己評価の伸

びを示し、3期生、4期生は自己評価が下がるというD2, D3, D5と同様の傾向を示した。主としてD6に紐づくことされる授業は、こころとからだ、ふくしとフィールドワーク, 知多学, 野外スポーツ論, 知多半島のふくし, スポーツ・運動指導者論, 地域スポーツ論, スポーツフィールドワークI, スポーツマネジメントなどである。特にスポーツフィールドワークIは学外実習を伴う2年生必修の授業である。この授業で学生は、自分たちで運動・スポーツプログラムを考え、実際に地域の人たちの前に立ち指導を行うものであるが、これができなかったことの影響が大きいと考えられる。

7. D7 『真実を見極める「知」への探求心を有している』について



図8 D7：真実を見極める「知」への探求心を有している

D7に関する質問は「あなたは様々な社会事象や問題, 疑問に思ったことに対して, それを深く知ろうとする気持ちがありますか」というものである。図8は入学年度別にその自己評価の平均の推移を示している。1期生から4期生まですべてにおいて入学時から1年にかけて自己評価が下がっている。しかし、2期生をのぞいてその後は上昇している、2期生も3年時にかけては上昇している。昨年度は

4期生をのぞく、1期生から3期生まで伸びていた。

8. D8 「国際社会を含む諸領域での情報の伝達・判断・理解力を身につけている」について

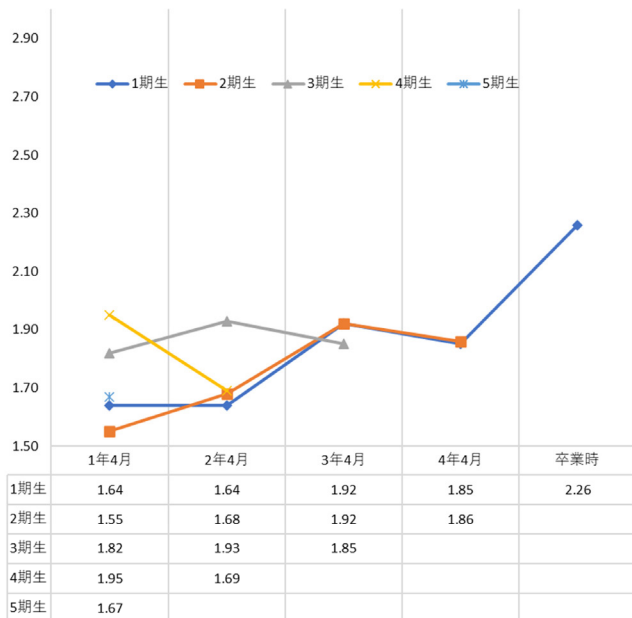


図9 D8：国際社会を含む諸領域での情報の伝達・判断・理解力を身につけている

D8に関する質問は「あなたは英語を使って自己紹介や会話をしたり、スポーツに関する英語の論文を読んだりすることができますか」というものである。図9は入学年度別にその自己評価の平均の推移を示している。相変わらず他のディプロマポリシーの自己評価ポイントと比べ主として約1.5から2.3と低い。昨年度に関しては1期生をのぞく2, 3, 4期生で自己評価が落ちていた。

9. D9 「他者と、スポーツを含む多様な手段によって良好な関係を構築する力を身につけている」について

D9に関する質問は「あなたは様々な場面で困っている人を見たとき話を聞いたり、支援したりすることができますか」というものである。図10は入学年度別にその自己評価の平均の推移を示している。D9についても昨年度は1, 2期生は上昇し、3,



図10 D9：他者と、スポーツを含む多様な手段によって良好な関係を構築する力を身につけている

4期生は下降するという結果となった。

10. 小括

ディプロマポリシー1～9に関する自己評価は昨年度、1, 2期生は上昇している項目が多かったが、3, 4期生は減少している項目が多かった。昨年度3期生は2年生、4期生は1年生だった。履修すべき科目が多くあり、かつ、導入ゼミ、スポーツ科学入門、スポーツフィールドワークI、スポーツ科学演習など学部教育の基礎となる科目を履修しなければならない学年である。この時期にコロナ禍の影響を受け十分な学習、実技、演習、実習を実施することができなかった影響がディプロマポリシーの項目に関係なく出ているのではないだろうか。1期生、2期生は基礎的な学習や実習を経験した後に昨年度を迎えたため影響が少なかったのではないだろうか。3期生、4期生が経験することができなかった授業内容をどう保障していくかが課題である。

1期生に関しては全ての項目で伸びを示しているが、卒業式後に調査を実施したことから、この日の気持ちの高揚感が影響していることが考えられる。今年度からは調査時期を検討することが必要かもしれない。

IV. 社会人力と体罰に関して

1. あなたは様々な場面で人と関わり、その集団がうまく機能するよう働きかけたり、調整することができますか？（社会人に求められる力）という質問に対して

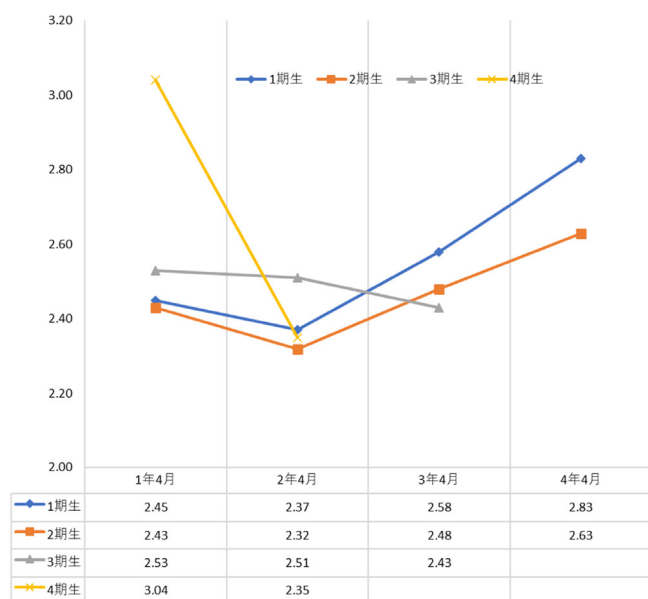


図 11 社会人力

ディプロマポリシーには記載されていないが、卒業後に備えて社会人力を養っておくことは重要である。これについてもディプロマポリシーに関する質問と同様に本学部設置時から調査を行っている。質問内容は「あなたは様々な場面で人と関わり、その集団がうまく機能するよう働きかけたり、調整することができますか」というものである。図 11 は社会人力が身についたと思うかどうかについて入学年度別に見たものである。昨年度に関しては1, 2期生は伸びているものの3, 4期生は減少しており、ディプロマポリシーに関する項目と同様の傾向が見られた。実技、実習系の授業が本来の形で行えなかったことに加え、学外でのボランティア活動なども十分には行えなかったことなどがその原因と考えられる。アドミッションポリシーに関する調査結果から本学部学生は自己表現と意思疎通に対する自己評価が低い学生が多いことがわかっている。これを

補うための授業や機会が少ない状況にある。コロナ禍で他者と対面してコミュニケーションをとり、チームワークを作り、一つの課題にあたる経験が少ない状況にあることから残された期間でいかにこうした機会を提供するかが課題である。

2. あなたはスポーツ場面における体罰はある程度は仕方ないと思いますか？という質問に対して

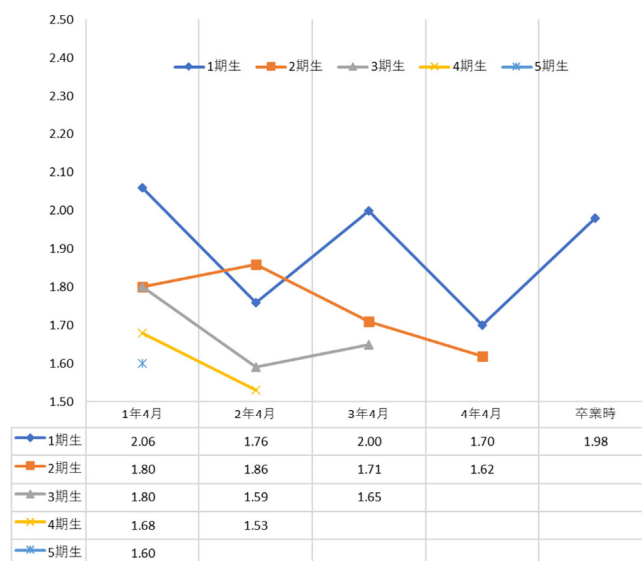


図 12 体罰

ディプロマポリシーの「3 スポーツや運動の意味や価値について理解している」や「5 スポーツ文化の継承・発展に貢献できる力を身につけている」、「9 他者と、スポーツを含む多様な手段によって良好な関係を構築する力を身につけている」に関連するものとして体罰にかかる質問も同様に行っている。質問内容は「あなたはスポーツ場面における体罰はある程度は仕方ないと思いますか」というものである。選択肢は「全くそうは思わない、思わない、強くそう思う」となっているため、この項目だけは評価ポイントが低いほうが好ましい。

図 12 はその結果を示している。昨年度に関しては2期生と4期生は点数が下がりよい傾向を示しているが、1期生と3期生はポイントが上昇していた。

V.1 期生の入学時と卒業時の比較

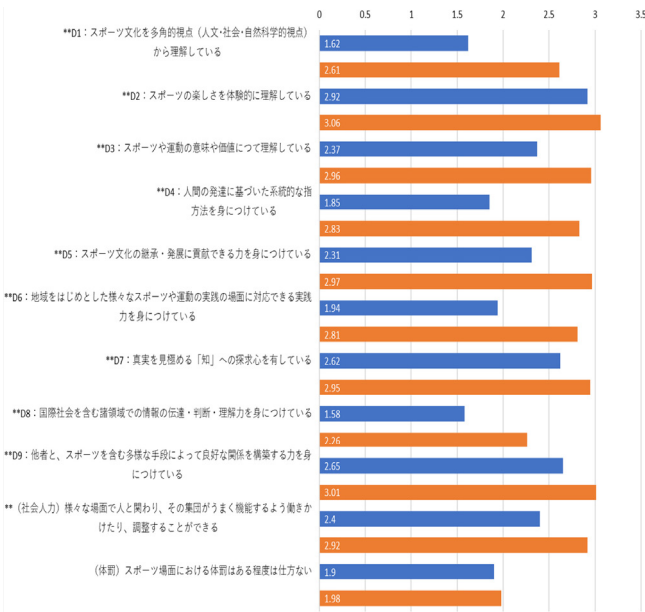


図13 1期生入学時と卒業時の比較
(上段：入学時、下段：卒業時)

図13は1期生の入学時と卒業時の調査結果の比較を示したものである。ディプロマポリシーに関する項目(D1～D9)のすべてにおいて点数が伸びていた。対応のある平均の検定結果これらすべての項目で1%水準で有意差が見られた。この結果から、4年間の本学部の授業カリキュラムはこれらのディプロマポリシーに対して一定の教育効果があることを示唆している。特にD1「スポーツ文化を多角的視点(人文・社会・自然科学的視点)から理解している」とD4「人間の発達に基づいた系統的な指導方法を身につけている」は1ポイント近い伸びを示しており、本学部の授業が有効であったことを示している。

一方、D2「スポーツの楽しさを体験的に理解している」については統計的有意差はみられたもののその伸びは0.14と他に比べて小さく、スポーツ実技系授業に課題があることが示唆されている。

社会人力に関しても0.5ポイント伸びており、1%水準で有意差が見られた。唯一、横ばいであり、体罰に対する教育が十分でなかった可能性がある。今後の学部教育の課題としたい。

ただし、卒業時の調査結果にはⅢ-10の小括でも述べた通り、いわゆる「ご祝儀相場」的であることが考えられることを付しておく。

VI. 卒業時の学部に対する意識

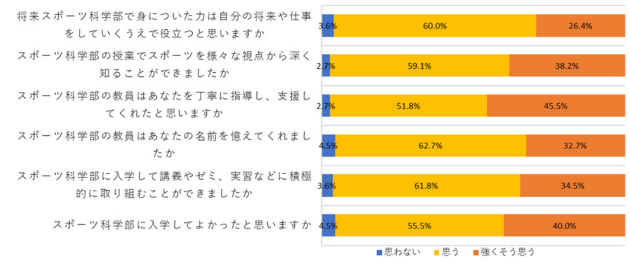


図14 1期生卒業時の学部に対する意識 (N=110)

図14は1期生の卒業時の学部に対する意識調査の結果を示している。質問項目は「スポーツ科学部で身についた力は自分の将来や仕事をしていくうえで役立つと思いますか?」「スポーツ科学部の授業でスポーツを様々な視点から深く知ることができましたか?」「スポーツ科学部の教員はあなたを丁寧に指導し、支援してくれたと思いますか?」「スポーツ科学部の教員はあなたの名前を覚えてくれましたか?」「スポーツ科学部に入学して講義やゼミ、実習などに積極的に取り組むことができましたか?」「スポーツ科学部に入学してよかったと思いますか?」の6項目である。いずれの質問項目に対しても「全くそうは思わない」と答えた学生はいなかった。一方、「思う」「強く思う」と答えた学生はいずれも95%以上おり、1期生はスポーツ科学部の教育、教員の指導に一定満足して卒業を迎えたと言える。ただし、これについてもご祝儀相場的である可能性があること、またほぼ全員が出席した卒業式時に実施した調査であるにもかかわらず、回答者数は110人で、スポーツ科学部に肯定的な思いを持っている積極的な学生の回答結果である可能性があることを指摘しておく。

文献

- 安藤 佳代子・甲斐 久実代・竹村 瑞穂・藤田 紀昭 (2019)
「スポーツ科学部3ポリシーに基づく学生自己評価アンケート報告 2018年度版」, 日本福祉大学スポーツ科学論集 2, pp.71-80.
- 甲斐 久実代・安藤 佳代子・藤田 紀昭 (2018)「スポーツ科学部3ポリシーに基づく学生自己評価アンケート報告 2017年度版」, 日本福祉大学スポーツ科学論集 1, pp.85-91.
- 甲斐 久実代・安藤 佳代子・竹村 瑞穂・藤田 紀昭 (2020)
「スポーツ科学部3ポリシーに基づく学生自己評価アンケート報告 2019年度版」, 日本福祉大学スポーツ科学論集 3, pp.57-64.
- 藤田紀昭・安藤 佳代子・甲斐 久実代・竹村 瑞穂 (2021)
「スポーツ科学部3ポリシーに基づく学生自己評価アンケート報告 2020年度版」日本福祉大学スポーツ科学論集 4, pp.107-114.